

安全な食料生産

わが国の1人1年当りの果実消費量は、昭和48年をピークに減少傾向を辿っており、50、51年平均に対し、55年は20%を超える落ち込みである。低成長時代に入っでの消費支出の伸び悩みを反映した結果としてだけでは、今一つ理解しきれない面がある。

果樹業界としては、挙げて「うまい果物作り運動」に力を注ぎ、それにより消費減退の喰い止めに躍気となっているのが現状である。

しかし、最近の消費者志向調査の結果は、まず安全性、それについて新鮮なことが「うまいこと」より優先して志向されているようにみとれる。これは、果実だけでなく、生鮮食品に共通したことかも知れないが、家庭の台所をあずかる主婦の立場からすれば、家族わけても子供の将来にわたっての健康を第一に考えるのは至極当然なことであろう。

昨春来、強力にすゝめられている農産物の自由化・輸入枠拡大反対運動において、消費者団体が生産者団体に連帯して、相手国の「輸入制限は日本の消費者に高価な食料を無理強いし、犠牲を払わせている」という宣伝をはね返して戦いをつづけているが、消費者の真意は、食料の長期的安定的確保という観点から、食料属国に陥ってはならぬという自覚とともに、輸入食料の安全性に対する危惧より大きくおかれていると伺える。

無農薬・無化学肥料栽培というに至っては、過敏も度が過ぎるが、主婦の立場に立つての植調剤はじめ化学生産資材の合理的使用による安全食料の供給は今日なお新しい問題である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 千野知長〕

目 次

(第16巻第10号)

総合研究の成果に期待する……………2

＜農林水産技術会議事務局長 岸 国平＞

’82 農薬業界を顧みて ’83 年頭に思う…4

＜農薬工業会会長 宗 展生＞

西ヨーロッパにおける最近の農業と雑

草防除(1)……………6

＜宇都宮大学助教授 竹内安智＞

I. 自然環境と農業……………6

1. 自然環境……………6

2. EC圏内における農業……………8

3. 主要作物の作付動向……………10

II. 主要作物の雑草と除草体系……………11

果樹園における除草剤の薬害について…20

＜果樹試験場口之津支場 高原利雄＞

1. カンキツ類に対する薬害……………20

2. 落葉果樹に対する薬害……………25

3. 防風樹に対する薬害……………26

昭和57年度春夏作芝生関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要……………29

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

昭和57年度桑園関係除草剤・生育調節

剤試験成績概要……………34

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

植調協会だより……………39